陳舜臣さんを語る会通信

NO.145 Oct. 2025

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34 橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」 編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員 発行日 2025年II月I日 http://www.eonet.ne.jp/~yuzo/

陳舜臣入門講座「陳舜臣さんと神戸を歩こう」を開催して

移情閣(孫文記念館)友の会主催で、7、8、9、10月と、月一で4回、「陳舜臣さんと神戸を歩こう」と題し、兵庫県立のじぎく会館を会場に陳舜臣入門講座が開催されたことは、すでに本通信NO. 144で触れました。本号では、このことについて少し詳しく報告いたします。

1994年、脳内出血で倒れられてからは寡作だったこともあり、「陳舜臣さんって誰?」と問い返されることが多い昨今、神戸を愛し神戸に生きた陳舜臣さんについて一人でも多くの人に知ってもらいたい、陳舜臣について語れる人、フィールドワークのナビゲーターの務まる人が育ってほしいという主催者の願いで、陳舜臣没後10年の今年、当企画は開催されました。講座のテキストには、A5版カラー44ページの冊子、陳舜臣さんを語る会編『陳舜臣さんと神戸を歩こう』を使用しました。右の画像は冊子の表紙です。



【講座名】「陳舜臣さんと神戸を歩こう」

【日時·内容】毎回、午前10時~12時

第1回 7月19日(土)「陳舜臣さんって誰?」

第2回 8月16日(土)「陳舜臣さんと神戸を歩こう」」

第3回 9月20日(土)「陳舜臣さんと神戸を歩こう2」

第4回 10月18日(土)「もっと知ろう陳舜臣」

頁	冊子 主な内容
3	Who is 陳舜臣?
4	神戸を愛し神戸に生きた陳舜臣
5-7	陳舜臣さんの引っ越し歴 <i>1、2、3</i>
8	三越神戸店 元町通すずらん燈 戦災にも焼け残った装甲ビル
9	トア·ホテル 須磨寺に立つ子規の句碑と陳さんの詩碑
10	『枯草の根』『三色の家』ほか"陶展文もの"の舞台
- 11	『他人の鍵』『南十字星を…』「隣りはなにを」の舞台 北野町
12	『凍った波紋』の舞台、山本通周辺は陳さん熟知の生活圏
13,14	陳舜臣さんと移情閣(松海別荘、孫文記念館)/、2
15	泰安公司 神戸華僑歴史博物館 陳舜臣アジア文藝館
16	「海軍営之碑」と「海軍操練所跡」記念碑
17	「三本松不動尊」と「私の好きな道」
18	「内海岸通(のちの乙仲通)」及び「旧居留地十五番館」
19	小学生の陳舜臣さんを診察した佐野実病院長
20	神戸市立第一神港商業学校、及び横溝正史生誕地碑
21	陳さん屈辱の出来事 植木市と指紋押捺
22-24	追谷墓地 外国人墓地 華僑社会に生きて
25	陳舜臣さんが再度山に登ったのは太子の森ルート
26	元町商店街付近に残る陳さんの色紙
27	陳舜臣さん生誕地の特定作業
28	1995年 月 7日 「悲しみを超えて 神戸よ」そして30年
30-41	もっと知ろう陳舜臣 1祖国、2コスモポリタニズム、3年譜、4T氏の書架



【チューター(講師)】50音順 金川幾久世、橘雄三、前田寿美恵、吉村晴夫 (全員友の会会員)

【場所】兵庫県立のじぎく会館 【参加費】各回千円、冊子代含む 【会場風景】ここにあげました2枚の写真はいずれも第1回 の会場風景です。



なお、来年のI月には、フィールドワークを予定しております。

神戸というまち

「そぞろ歩き」から

見

冊子『陳舜臣さんと神戸を歩こう』増補版のためのポイント三つ(1)

有馬温泉

二枚の写真を入れるとほぼ六頁にに有馬温泉を取り上げています。の八番目、「そぞろ歩き」の最後しからなるが、陳舜臣さんは、そ なる相当な記述です。 神戸というまち』 は 陳舜臣さん 加筆。 は 十 の 粋引用し

おちついた情緒をもっている。 有馬は山にとざされているた まだ神戸市内なのだ。 |(※現在は北区)有馬町である。 温泉郷「有馬」は、 神戸はひろい。 六甲を越えても 神戸市兵庫 め

> の ٧

おなじ神戸でも有馬は裏神戸であっ るい開放的な町であるとのべたが、 地域といえるだろう。 神戸は太陽のいっぱいの、 さしずめ有馬は反神戸的 あか

> なが鳥猪名野を来れば有馬 、霧立ちぬ宿はなくして Ш

> > 講談社『陳舜臣全集3』

蝉が鳴く」から

発見者 は、

٧

伽衆もひきつれての豪遊である。にきている。千利休やそのほかな残っているだけでも、七回も遊びのは、太閤秀吉であろう。記録4 伝えられてい 有馬ファンのなかで最も有名な 有馬温泉の 七回も遊び 行基上人 記録に か

涼しくて気持ちはよいが、 この原稿を書いているところだ。 適 がある。いまも三十五度の猛暑筆者も有馬へ仕事をもちこむこ 神戸の街をとび出して、 五 月雨を跡に置きつつ有馬菅 睡くてしょうがない。 有馬で あまり

万葉集巻七

『神戸というまち』掲載 夜景俯瞰写真 下部は神戸電鉄有馬温泉駅

> から抜粋引用 L

顧談をきくためなのだ。 れてしまうのである。 八は口を噤んで目をとじた。 庭で蝉 彼女は上海の大富豪の が彼 女の上品な、 の鳴き声にもすぐ消 女を訪ねるの が鳴きだすと、 かぼそい は 曹 張 声 Ł 夫 家 回

に誘拐され、高額七年、彼が四歳のの後継者曹修耕か 席した、 に 生まれ、これも大財閥の曹家 上 から始まります。 を 取されたという事件を 嫁いだ人です。 海の大富豪張家 れます。 曹修耕の依 有馬温泉に滞在 中 彼の釈: 時 が成器に. 夫人の息子で曹財閥人です。そして、同 理 このあと、 時 回 放に骨を折った 顧談を聞く の国府軍の青年 高額の身代金を から、 頼で、 の時、 会いに上 作 の娘として 夫人は、 する曹夫 この事 私」 何者か 一九三 、 場 面 一京し 聞 か

いになった。 泉閣に逗留中の彼女と知紹介する人がいて、私 ではなく、 とにした。 いと思っていた時代の背景を な小説の材料探しということ 彼女からいろんな話 把握する一 上海の張家から曹家へ嫁 助にするつもりで、 かねてから書きた そして、 をきくこ 体 的

知らずして歴史の いたのである。 三菱のお嬢さんが、 本 流の近く 彼 女は

きはじめた。 潤泉閣の庭で、 た蝉 が

ŧ

ばを借りると、だというのは、 関西ですごす。 井家に嫁入りしたようなもの。 きめている。 ときは、 好きだったのだ。 とのはずだ。 とうぜん中華 ろ彼女がおぼえてい ということだった。 曹夫人は日本滞在 辛亥革命は 女はことし六十 有 -民国成 京都 紹 神戸に 介者の るの 二歳 の うど六十 かに りは 半を は、 であ 閣 泊 る が

冊子『陳舜臣さんと神戸を歩こう』増補版のためのポイント三つ(2)

ふたたびさんたいりゅうじ たいしみち 再度山大龍寺と大師道



■ 猩々池

中茶屋

燈籠茶馬

武夷登山会三十周年を祝う 江戸川乱歩賞 直木賞 受賞作家 陳舜臣

神戸武夷登山会機関誌『三十週年紀 念刊』(1969年5月発行)から抜粋引用し ます。

わが再度山も山上近くに大竜寺がある。弘法大師が二度この山に登ったのが『再度山』の名の由来であるときくが、入唐求法の弘法大師は、中国とは縁が深い。その名僧にゆかりのある再度山に、大ぜいの華僑が登っていることは、なにかの象徴のように思える。

30数年まえに武夷登山会が創立されたとき、私はまだ子どもであったが、父に連れられてよくこの山に登った。再度山は私の少年時代の思い出にもつながるが、この山麓に居を移して2年来、ほとんど毎日登るようになった。

※登山会名、正しくは武 🏂 ですが 活字がないので武夷で代用。

> ■空海が入唐前の804年と帰国 後の二度、摩尼山大龍寺に参詣 したので、次第に再度山と呼ば れるようになり、やがて、再度 山が正式山号になった。

再度山大龍寺

8月に入って最初の土曜日、再度山大龍寺に参詣しました。行きは森林植物園行の市バスを利用し、帰りは諏訪山公園下まで歩きました。

『よそ者の目』「旅にしあれば」から抜粋 引用します。

私の家は神戸の再度山の麓にあるので、かんたんに山に登れる。毎朝、約一時間半ほど山歩きをするのが、ここ数年来、私の習慣となっている。同好の士も多く登山会をつくって、山の茶店にノートを置き、登山のたびにサインをして、回数の多さを競う。これは戦前からのしきたりだった。

山頂に近い大竜寺境内に『万回碑』というのがあり、登山一万回に達した人の名を石に刻んでいる。一万回といえば、毎日休まずに登って二十八年はかかる。しかも戦時中は記録がなかったため計算されないので、万回碑に名をつらねた人は、いずれも三十年以上、山に親しんできたことになる。さすがに数はそれほど多くはなく、十人ほどだったと思う。

■確認できた『万回碑』は神戸ヒョコ登山 会のものでした。一人で数会の会員である のがふつうであったようです(『神戸わがふ るさと』「次の世代に伝えよう」参照)







仁王門



■[燈籠茶屋]既に廃業 [稲荷茶屋]陳さんの色紙 は店に掲示されていました

陳舜臣邸

Aから登るのが大師道。ほぼ再度谷川に沿ったルート



大师堂(ある) 大師堂(本堂)

37-38頁)から抜粋引用。

いうまち』

誠

シュウエケ

陳舜臣作品に描かれ

た真珠

商

異人館

のなかで最

冊子『陳舜臣さんと神戸を歩こう』増補版のためのポイント三つ(3)

山本通り(異人館通り)界隈

異人館通りの北側は北野町(二、三、四丁目)で、南側は山本通(一、二、三丁目)。今、ここで話をしよ うとしている、西から順に、シュウエケ邸は山本通3丁目5-17、北村真珠は山本通2丁目8-13、タカハシパール は山本通1丁目6-20。 ※陳舜臣さんはシュエケと記述。

しくは No.27を参照下さい。

戸外国人居留 ハンセル

『呉錦堂を語る会通 のも 建築者、 地にありまし ことで、 横山栄吉 た。

だったのです。閣の設計者・建 棟梁として仕事をしたの ハンセ ル の事務 が移情 製図者、 所 は

ば

れる等、

ールシテ

がこの界隈に事務所を持ち、

ールストリー

の

中

心になっている。

筆者もいちどなかにはいっ

今

日

在

はシュエケ氏が住んでい

もここにあります。 西 館 ħ の 通 て 通り いるのは、 1 より ルストリー ミキモト真珠な 幾筋か南 山 本 通り ٦, にある と呼ば (異 東

サンダー・ネルソン・ハンセルの 間建築家として活躍した。 三十一歳のときに来日し、 のメンバー 王室建築協会(R・I・ 手になるも 戦災や改築で、 三十年あまり、 六十二歳で中国に去るま は、 で、 が多 英人建築家アレキ 明治二十一年、

一貫して民

大正

彼が自分の住居として建てた家 品はあまり残っていない。だが、 口 幸い現存している。 ド の 西より、 に面している家であ ハンセル 山 本通り三 トーア の作

か

けやすかった。 工業者が北窓の 伸びている地形 加 いう利点を持って な北光線を安定して得られ えて、 戸 は 六甲 北野町あ 山 ある作業場 反射した か いる。 Š たり がは東西 真珠 そ n る の

設加ににと

ジュンク堂書店)より抜粋引用 神戸真珠物語』(二〇〇九 、傍線は加筆) 年

いま パす臣 はフカミ・パ IJ 宅 に 下の地図を見て下さい。 の近くに村田真珠がありま ル 社屋を置く真珠商 のモデルだと思えます。 この村田真珠がフカミ 1 ル が 描 作品で か 陳 N

彼は英国

た波紋 に は 山 本

でも百社を超える真珠業 ト」の名で呼 海外移住と文化の交流センター ※陳さんの記述はトーア・ロードですが、道路標識はトアロード 山本通り(異人館通り) 村田真珠 TAKAHASHI シュウエケ郎 村田真珠はす アロード PEARL 野坂 でにない